

糸数アチラガ

アチラガは、沖縄本島南部の南城市玉城字糸数にある自然洞窟（ガマ）です。沖縄戦時、もともとは糸数集落の避難指定であったが、日本軍の陣地壕や倉庫として使用され、戦場が南下するにつれて南風原陸軍病院の分室となりました。軍医、看護婦、ひめゆり学徒隊が配



多くの避難民の命を支えた貴重なガマ



壁面に築かれた壕風よけの壁



数百人の避難民の食事を賅ったカタド



平和を願い手向けられた下部が後を絶たない

いまま 沖縄戦の実相を現在に伝える 糸数アチラガ



沖縄本島南部地域

糸数アチラガを中心にした戦闘経過概要

年月日	事項
昭和20年 7月頃	●日本軍の各部隊が村内に駐屯し、陣地構築が盛んになる。 ●第1巡回隊（南風原）が玉城地区の本部が南風原国民学校に置かれた。 ●第1巡回隊（西部隊）アチラガに入り要領を始める。
昭和19年 10月10日	●米軍大空襲 ●配備変更により石壁隊独立歩兵第15大隊の本部が玉城国民学校に置かれた。
昭和20年 12月27日	●ガマが武器弾薬倉庫へ移動
昭和20年 2月11日	●第1巡回隊の美田隊が玉城国民学校から糸数の兵舎に引っ越した。 ●美田隊が糸数城壁の南側に兵舎を築き、陣地を拡大する。
昭和20年 3月20日頃	●カタドに直径1mの空気がいを設置された。
昭和20年 3月23日	●村民は朝当てられた避難壕へ移動した。海沿いでの警戒が厳しく、糸数の住民200名位がアチラガで避難する。
昭和20年 3月24日	●海上浸透基地第2大隊は志賀原陣地よりアチラガへ移動。
昭和20年 4月1日	●カタドには多くの重砲隊の食糧が積み上げられ、カタド内に陣地構築がはじまった。
昭和20年 4月1日	●美田隊が陣地を移動した。
昭和20年 4月27日	●海上浸透基地第2大隊がアチラガより出る。
昭和20年 4月28日	●南風原陸軍病院より大規模な壕を長として糸数アチラガへ移り糸数分室として設置された。
昭和20年 5月1日	●ひめゆり学徒隊14名が大城和重先生に引連れられ、南風原陸軍病院より未明のカタドに落ちた。この日多くの避難民が来て看護にあたり、5月2日以降も次々と避難民が詰め込まれた。
昭和20年 5月10日頃	●アチラガへの搬入のための軍医の西平中尉、薬師少尉と兵8、9名と一緒にきて治療にあたった。
昭和20年 5月12日頃	●原野相軍医とその家族、ひめゆり学徒隊2名がガマにこもった。
昭和20年 5月中旬頃	●ガマの中の避難民の数は悪化し、壁へ貼られたりになり、重症患者、戦傷患者が増え続けた。
昭和20年 5月25日	●撤退命令によりアチラガから重傷患者とひめゆり学徒隊2名の伊原糸数分室へ強制移動し、残り約10名の重傷患者とひめゆり学徒隊が4名は残る。
昭和20年 5月26日～30日	●残された重傷患者が次々と出て南部へ搬送するもいれた。
昭和20年 5月末頃	●米軍玉城へ進入。玉城地区の百名米軍の兵舎が建てられた。
昭和20年 6月1日	●村内の一部の避難民は米軍に収容され、玉城地区の百名米軍へ入る。
昭和20年 6月6日	●糸数アチラガで米軍に攻撃される。2名の米兵がカタドの中に入って来たので小銃で威嚇射撃をする上、逃げた。
昭和20年 6月8日	●現在の出口から資糧庫を掘り出し、火曜日に埋めた。
昭和20年 6月10日頃	●出入口や空気がいの入り口の入り口を20本カタドの中に掘りこまれ、車にして引くすず燃えさせた。このカタドの奥に住民と重傷患者が押し込められた。
昭和20年 6月13日～14日	●米軍が現在の出口に大砲をえけて攻撃しようとしたが、大砲を下にすりしてしまい目的を達すことが出来なかった。
昭和20年 6月17日	●米軍が現在の出口をうけて来た。
昭和20年 6月23日	●糸数アチラガから搬送された伊原糸数分室で至近弾が炸裂し、多数の学徒隊と兵士の犠牲者が出た。
昭和20年 8月15日	●沖縄での戦線終結。
昭和20年 8月22日	●日本無条件降伏
昭和20年 9月中旬頃	●糸数アチラガがアチラガの避難民はガマより出て米軍に収容された。 ●カタドの中に生き残った2名の傷病兵も避難民と一緒に出て米軍に収容された。 ●カタドの中にこもった最後の兵と住民の名計3名は米軍に収容された。
昭和23年頃	●部室内にあった遺骨を収集し、アチラガの出口の敷島神社に集めた。
昭和23年頃	●アチラガ内の運河収集を本格的に行なった。
平成5年3月	●アチラガ内の遺骨はカタドに入れ、陣地の「残骸集約」に運んだ。
平成5年	●アチラガの整備委員会を設置

行われた多くの人々は、戦争の悲惨さ、平和の尊さを新たに認識した。

アチラガの入口

出口への階段

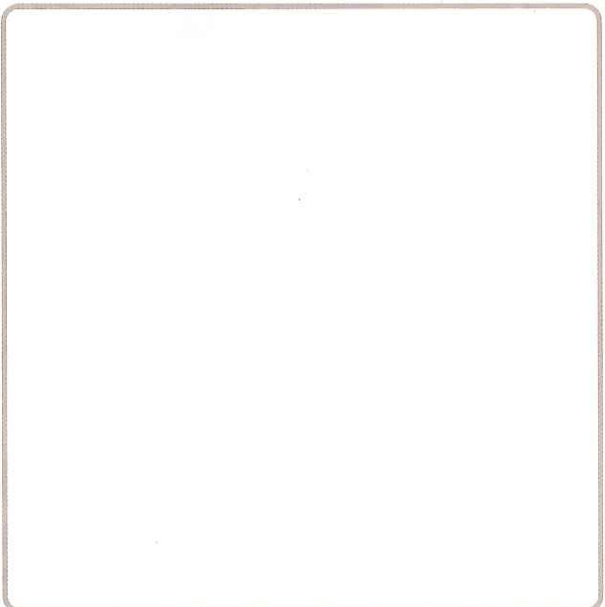
糸数アブチラガマ

平和への願い新たに



■アブとは…深い縦の洞穴。
■チラとは…崖のことで、沖繩の方言で崖が縦に大きく落ち込んだ所を「大(ウフ)チリハツタ」といふ。

■ガマとは…沖繩方言で洞窟やくぼみのことを言います。沖繩本島中南部はほとんどが隆起サンゴ礁でできており、数十万年にわたる雨の侵食によってできた自然の洞窟が各地にあります。沖繩戦では、この自然の洞窟が住民の避難場所となりましたが、日本軍の作戦陣地や野戦病院としても利用されました。戦争が激しくなると、ガマは市民同僚のかたちとなって米軍の攻撃的となり、多くの命が失われることになりました。



入 壕 料

	大 人	小 人	減免対象者
個 人	250円	100円	50円
団 体 (20人以上)	200円	100円	—

※大人(高校生以上) 小人(小学生~中学生) 減免対象者(小人の5割減額)

営 業 時 間

■月曜日~日曜日(年末年始を除く)
午前9時~午後5時
※要予約

交 通

- 那覇/ヌターミナルから市外線51・53系統で約60分
- 糸数入口/ヌターミナル下車、徒歩約10分
- 那覇空港より車で約40分
- おきなわカーニバルより車で約10分

お 問 い 合 わ せ 先

南部観光総合案内センター
〒901-0606
沖縄県南城市玉城字糸数667-1
TEL 098-852-6608
FAX 098-852-6466



沖繩戦の概要



住民捕虜 1945年9月(写真提供:琉球新報社)

沖繩戦とは太平洋戦争の最終段階、1945年3月下旬から7月までの戦いを言います。1941年に太平洋戦争が勃発し、太平洋の島々で劣勢となった日本軍は、米軍が沖繩に上陸するのを見て、米軍を沖繩に引きつける作戦をとりまします。それは、本土決戦の準備をするための時間稼ぎであり捨石作戦でした。このため、沖繩は唯一の地上戦の場となります。

米軍は1945年の4月1日に沖繩本島の中部に上陸し、日本軍の指令部であった首里に向かいます。米軍の圧倒的な戦力に、首里の陥落が目前にせまるところで日本軍は南部へ撤退します。米軍の上陸地点から首里城指令部までを中部戦線、首里以南を南部戦線と言います。南部戦線では十数万人の一般住民が巻き込まれ悲惨な結果を迎えることとなります。

6月23日、牛島司令官の自決により日本軍の組織的戦闘は終了しますが、その後も各地で戦闘が続き、米軍が作戦終了を宣言したのは7月2日のことでした。この90日間にわたる沖繩戦で、日本兵6万6千人、沖繩出身兵2万8千人、米兵1万2千人、一般住民9万4千人が亡くなりました。当時の沖繩県の人口は約50万人でしたから、県民の4人に1人が亡くなったこととなります。



生存者の証言
アブチラガマから南部の伊原まで
久保田ハル(南城市玉城出身)
当時23歳

1945年3月24日、私たち(父母、姉、子供たち総勢12名)は、村から割り当てられていたガマ(アブチラガマ)に避難しました。しかし、ガマはもう避難先がいっぱいで、近くの別のガマに避難しましたが、子供を一人失い、祖母の具合も悪くなったのでアブチラガマに移動しました。

5月に入ると南風原陸軍病院から重傷患者が搬送され、前線からの負傷兵も増加するばかりで、ガマ内は負傷兵と住民がひしめきあっていました。ガマの中は大きい白いワシミが多く、着替えも充分になく、同じ服を着けっぱなしでした。

近くに避難場所を探しましたが、どこもいっぱいなので南部に移動せざるを得ませんでした。途中、避難していたガマも兵隊から追い出され、ヌターミの茂みに身を潜めていた所に艦砲弾が落ち、父母、姉2名、娘5名の計9名をその場で亡くしました。生きている限り、あの悲惨な沖繩戦は忘れることはないでしょう。